

びばい社協の ぽぷら

第21号
VOL.42

新年のご挨拶

社会福祉法人美唄市社会福祉協議会
会長 高橋 将

新年明けましておめでとうございます。

平成 23(2011) 年の年頭にあたり皆様にご祝詞を申し上げますとともに、昨年中に皆様から寄せられましたご支援とご協力に感謝とお礼を申し上げます。

昨年は本会にとりまして懸案となっていた地区社協（南美唄校区社協、有為東町内社会福祉委員会）の設立、大型備品の更新（送迎用リフト車、機械浴）など盛り多き年でありました。

本年は創立 60 周年という節目の年であるとともに、第 2 期地域福祉実践計画（計画期間：平成 21 ～ 25 年度）の中間年であることから身近な生活課題や地域課題の解決に向けて社協らしい新しい福祉サービスの開発や提供など各種事業の確実な実践を通じて、皆様に分かりやすく・親しまれ・頼りにされる社協を目指して参りたいと考えております。

いずれにしましても厳しい社会経済状況が続く中で私たちに課せられている役割は益々増大するものと考え地域福祉の着実な推進に邁進して参りたいと考えておりますので皆様の格別のご支援とご理解、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。

美唄市共同募金委員会
会長 谷口 トシ

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては「赤い羽根募金」並びに「歳末たすけあい募金」にご理解とご協力いただきまして誠にありがとうございます。昨年も小さい子どもさんから高齢の方々まで数多くの幅広い市民の皆様のご協力により浄財を頂戴することができました。

皆様から寄せられました貴重な募金は、全道の福祉教育、社会福祉施設、小規模作業所及び社会福祉協議会の活動資金、また、市内の援護を必要とされている方々への助成事業に活用されます。

さて、本会では昨年、名称の改正や募金計画や用途などを審査する機関の設置など皆様により身近で透明性の高い募金団体として再スタートしました。

北海道共同募金会では「道民の共有財産としての共同募金の価値を高めていく」をテーマにして「地域をつくる市民を応援する共同募金への転換」として広範な市民活動を含めた地域福祉活動の応援団となることを目指しております。

本会では本年も道の共同募金会との連携を深めて、送る人と受け取る人の懸け橋として皆様から頂いた浄財を活用したいと考えておりますので、一層のご理解・ご協力と善意をお寄せくださるようお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。

今年も多くの人と手を取り合って
進めますように！



就任のご挨拶

美唄市民生・児童委員協議会連合会
会長 黒宮 健治

皆様には日頃から民生委員・児童委員活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

昨年11月末で任期3年間の終了し、この度、新たに新任委員18名を含む87名が選任され、厚生労働大臣並びに北海道知事からの委嘱状が伝達されました。

民生児童委員連合会の運営を託された役員11名は、相互の人間関係をしっかり築き、一致協力して微力を尽くす決意をしておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、民生児童委員は、住民の最も身近な相談者として、地域の中で活動することが期待され、とりわけ、支援を必要とする高齢者や障がい者等に対する相談や助言を通して自立を支援する活動が求められております。

更に、地域における住民相互の支え合いの仕組みづくりに積極的に関わり、誰もが安心して暮らせるまちづくりの実現に向け、努力して参りたいと思っております。

また、児童委員として児童生徒の健やかな成長を目指し、通学路の見守り活動や非行抑制、事故防止に取り組んで参ります。

次に主任児童委員10名は、民生児童委員と連携して、子育てや不登校・児童虐待等の児童に関する専門的な分野を担当し、学校や関係機関と連携して取り組んで参ります。

最後に、社会福祉協議会や関係機関・団体等との連携を深め、共に支え合う地域社会づくりに努めますのでご協力をお願い致します。



美唄市民生・児童委員協議会連合会 新役員をご紹介いたします

会 長	黒 宮 健 治
副 会 長	蓮 井 光 夫
	正 岡 辰 郎
事務局 長	本 田 和 幸
会計部 長	板 倉 正 三
主任児童委員部 会長	村 田 千 津 子
理 事	長 尾 憲 護
	佐々木 護
	高 橋 千 治 功
	寺 門 功
監 事	小 野 義 和 幸 子
	阿 部 忠 幸 子
	土 屋 光 子 一
	江 川 昭 一

地域福祉セミナー 「地域の暮らしをささえる権利擁護事業について学びました」

昨年11月13日(土)ほぷらにおいて、本会主催の地域福祉セミナーが開かれ、60名の市民が参加し、基調講演と制度説明、シンポジウムが行われました。

基調講演では、旭川大学保健福祉学部教授白戸一秀さんから「地域福祉の視点と権利擁護の仕組みづくり」と題し、「閉じこもり」「話し相手がいない」「相談相手がいない」などの地域の暮らしにくさとその暮らしを支える仕組み(制度)についてお話いただきました。

制度説明では、成年後見センター・リーガルサポート札幌支部司法書士三浦信一さんから「わかりやすい成年後見制度」と題し、成年後見制度の概要(法定後見・任意後見)と申立方法、その課題についてわかりやすく説明いただきました。

シンポジウムでは、市内4団体の担当者から「身近な事例をとおして地域福祉権利擁護事業と成年後見制度を考える」と題し、本市における権利擁護事業と成年後見制度の利用状況、その課題について報告いただきました。

道社協空知地区地域福祉生活支援センター自立生活支援専門員の工藤三千代さんから「本市の権利擁護事業契約件数(昨年7月現在)は8件、その利用者を市内に住む生活支援員5名で支えている」こと、美唄市地域包括支援センター社会福祉士の大山敏之さんから「悪質な訪問販売の被害にあった」「財産管理に自信がなくなった」「虐待に

あっている人がいる」などの相談窓口になっていること、北海道光生会爽やかネットワーク相談支援専門員の鈴木春さんから知的に障がいのある地域生活者が「パソコンもないのにフレッツ光の契約をした」「携帯電話の有料サイトの使い過ぎ」などの金銭トラブルに巻き込まれる事例があり、その対策として第三者による金銭管理が鍵になること、本会地域福祉課長の越前谷から「成年後見制度の周知が不十分であること」「成年後見人等の人材が不足していること」などの指摘がありました。

地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などの詳細は、本会地域福祉課、市地域包括支援センターまでお問合せ願います。



▲ シンポジウムでは、市内の権利擁護や成年後見制度の利用の状況や、今後益々必要となる事業である事が話されました。

クリスマスに交流の輪ひろがる！

親子で集合X'masパーティ!!

去る12月12日(日)「親子で集合!!X'masパーティ」(主催:同実行委員会・社協)が、養護学校を会場に開催されました。

市内幼稚園、小学校、養護学校の児童・生徒と保護者を参加対象者とし、障がいのあるなしに関わらず、子どもも大人も楽しみながら集い、交流をはかることで、地域のささえあいの輪を広げることを目的に開催しています。開催に当たっては、多くの市民ボランティアの協力を得ています。

今年は、東中学校吹奏楽部による演奏で幕を開け、続いてボランティアサークル「ひまわりグループ」による大型紙芝居とゲームを楽しみました。参加者はボランティアを含め、約150名でした。



▲ 東中学校吹奏楽部の演奏の様子

子どもたちは、日ごろ触れ合う機会の少ない他校(幼稚園)の子どもたち、高校・短大生などボランティアの方々と短い時間でしたが、クリスマスを楽しみました。多くの市民のご参加をいただきました。ありがとうございました！

ボランティアセンター だより Vol.5.

「除雪ボランティアに 参加しませんか？」



○どうしてボランティアなの？

美唄は道内でも積雪の多い地域です。とくに、一人暮らしの高齢者や、障がいのある方にとって、除雪は生活していく上での大きな問題といえるでしょう。

社協で行う除雪ボランティアは、市の福祉除雪や業者の利用、近隣等の援助が困難な高齢者・障がい者世帯を対象に、住みよいまちづくりを目指す地域づくりの一環として行っています。

○ボランティア除雪を頼みたい方は・・・

社協までご連絡ください。一度、訪問させていただき、積雪や、依頼される方の状況をお聞きし、同時にボランティア除雪についてご説明させていただきます。

○一緒にやってみよう

この時期、多くの除雪ボランティアさんが活動してくださっています。ボランティアに興味がある、地域での活動に参加してみたいなど、動機は様々ですが、ボランティア一人一人の力が、安心して暮らせる美唄を作ります。何といても、除雪を終えた後の爽快感！あなたも一緒に参加しませんか？

赤い羽根ふわっとチャリティパーティ報告

— ふれあいバザー同時開催 —

恒例となりましたパーティを昨年11月26日(金)にぽぷらで約330名の市民が集まり楽しい一時を過ごしました。

このパーティは共同募金活動の一環として共同募金会はじめ社協、身障協会、母子会や保護司会が実行委員会をつくって今年で第7回目を迎えたものです。パーティはバンド演奏やアトラクションなどで大変に盛り上がり、当初の募金目標額を大きく上回る568,244円を道共同募金会へ寄附いたしました。皆様のご協力に心から感謝します。

また、同時開催した「ふれあいバザー」には5福祉施設・団体等が展示即売を行い、パーティ参加者が障がい者などの作品を購入していました。



生演奏で会場を盛り上げてくれた「ジューク・ボックス」の皆さん(写真上)華麗なダンスで参加者から多くの募金を頂きました！社協職員有志(写真右)

あなたの 善意 大切にします

平成22年5月21日～平成22年12月20日

永谷 武雄 様	100,000 円	故和泉絹江様のご遺志により社会福祉事業に役立ててほしい
福田 雪枝 様	100,000 円	社会福祉事業に役立ててほしい
社協・共募チャリティパークゴルフ大会参加者一同 様	25,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
大嶋 政江 様	30,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
永谷 武雄 様	サラダ油・砂糖等	社会福祉事業に役立ててほしい
美唄消費者協会 様	20,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
土屋 裕子 様	10,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
市民ふれあいまつり実行委員会 様	178,486 円	社会福祉事業に対する寄付金として
美唄市老人クラブ連合会女性部 様	20,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
どんぐりの会 様	5,000 円	市民ふれあいまつりのバザー益金の一部を社会福祉事業に対する寄付金として
(社) 岩見沢地方法人会女性部会 コスモス会 様	10,000 円	歌舞裸まつりのバザー益金の一部を社会福祉事業に対する寄付金として
大西 章子 様	靴下 44 足・現金 5,000 円	社会福祉事業に役立ててほしい
伊賀 省一 様	50,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
美唄更生保護女性会 様	20,000 円	市民ふれあいまつりのバザー益金の一部を社会福祉事業に対する寄付金として
美唄市介護家族と共に歩む会 あしたば 様	3,250 円	社会福祉事業に対する寄付金として
国際ソロプチミスト美唄 会長 北野陽子 様	50,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
竹下 道子 様	30,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
社会福祉法人クピド・フェア 理事長 吉田栄次 様	10,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として
小川 義美 様	野菜等	社会福祉事業に役立ててほしい
北海道コカ・コーラボトリング㈱岩見沢事業所 様	清涼飲料水 78,960 円相当	社会貢献の一環として(保育所等に配布)
美唄めぐみ幼稚園 様	10,000 円	社会福祉事業に対する寄付金として

社協 からのお知らせ

内容に関する詳細につきましては、本会地域福祉課
(☎62-0770) までお気軽にお問合せ下さい



2011びばいっ子フェスティバル

みんなで思いっきり遊ぼう！

大人も子どもも楽しめる盛りだくさんのプログラム！
一緒にあそんで友だちをふやそう！

- ◆ 日 時 1月9日(日) 10時～13時
- ◆ 場 所 美唄市総合体育館
- ◆ 内 容 人形劇・ボールプール・ゲーム・もちまき等
- ◆ 主 催 美唄市
- ◆ 主 管 びばいっ子フェスティバル実行委員会
- ◆ 対 象 どなたでも参加できます 参加無料

ぼぷら 42号 2011(平成23)年1月号

発行 社会福祉法人美唄市社会福祉協議会
〒072-0026 北海道美唄市西3条南3丁目6-2
美唄市総合福祉センターぼぷら内
TEL 0126-62-0770 FAX 0126-62-6996
ホームページ <http://www.bibai.com/shakyo/>
Eメール shakyo@mail.bibai.com



認知症高齢者等家族介護教室

食から考える認知症介護

食に対する意欲は生きる意欲につながっています。認知症の
人が生きる意欲を高められる食事についてお聞きします

- ◆ 日 時 2月6日(日) 13時30分～15時
- ◆ 場 所 総合福祉センターぼぷら
- ◆ 内 容 「認知症にならないための食生活をどうするか」
- ◆ 講 師 北海道栄養士会食育推進委員長
山際 睦子 さん
- ◆ 対 象 どなたでも参加できます 参加無料



お話(傾聴)ボランティアスクール

心を傾けて聴いてみよう！

地域・家庭・社会の中で相手の話をどう「聴く」のか、
その技法を学びます

- ◆ 日 時 2月12・26日、3月12・26日
(全4回いずれも土曜日) 13時～16時
- ◆ 場 所 総合福祉センターぼぷら
- ◆ 講 師 札幌市ボランティアセンター運営委員長 川本 俊憲 さん
- ◆ 対 象 どなたでも参加できます 参加無料